

466 関東地方の震動地塊と断層地塊

角田史雄(埼玉大学・教養)

関東地方では、有感地震のとき、水平動のつよさの異なる区域が現われる。これらの区域は、顕著なたて揺れ初動で特徴づけられる異常震動帯(第1図)によって境され、震動地塊をなしている。

「綾瀬川異常震動帯」に注目すると、この異常震動帯の位置は、地表で観察される「綾瀬川断層」(堀口・清水, 1981)のそれとも、地下に推定される「綾瀬川基盤断層」(角田・埼玉人工地震観測グループ, 1981)のそれとも一致する。

一方、関東地方に発達する断層(第1図)のなかで、異常震動帯との対応のよいものがあり、それらの多くは武蔵野期以後に活動(基盤の断層の再活動)したものである。これらの断層群は一種の断層地塊群を形成している。

以上のことから、関東地方では、武蔵野期から現在まで活動的な地塊が存在するといえよう。



第1図 関東地方の断層(実線)と異常震動帯(太実線)